

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891900033		
法人名	社会福祉法人 栄宏福祉会		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	兵庫県小野市久保木町字出晴1561-24		
自己評価作成日	平成26年8月18日	評価結果市町村受理日	平成26年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館 6階		
訪問調査日	平成26年9月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の人々との交流をしながら、利用者様が地域で暮らしていることを肌で感じることが出来るような取り組みを工夫したり、畑作りを利用者様と職員とで取り組み、収穫した新鮮な野菜を食事に使用し、地域からの頂きものを料理に使ったりしています。広い庭があり、自然の中で生活していることを感じて頂ける状態です。
「住みなれた地域で共に楽しく生きる」という理念をもとに、利用者様と共に職員も楽しめるように外出や行事を取り入れ、またその人らしい生活が出来るようなケアに取り組んでいます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小野市のやや北東部に位置するのどかな自然環境の中にあるグループホームこもれびは、地域でただ一つの複合型の地域密着型施設。広い敷地には緑の木々や芝生、そして畑があり、長年、畑仕事に従事されてきたご利用者の知恵を借りて、季節の野菜や果物を植えて収穫を楽しんでいる。収穫した野菜などを調理して一緒に食べるなど、今春から着任の施設長は、ご利用者と共に楽しく感謝の気持ちを持って暮らしを支えるとの法人理念に基づいた取組を、全職員と共に実践している。活力あふれる職員と共に、ご利用者の方々も落ち着いて過ごされており、食卓やソファでそれぞれ、自分のペースでくつろぎ、穏やかな表情などが窺えた。引き続き更なるサービスの質向上への取組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員間で共有し、入職時にオリエンテーションで説明、朝礼で復唱、勉強会で理念の共有を図っています。日々のケアに活かせるように努めています。	法人の理念をパンフレットに明記し、施設ロビーには木版でしつらえて通る人の目に留まるように掲げている。また毎朝の朝礼で職員全員が唱和して共有を図ると共に利用者一人ひとりを大切にしたい支援に努めている。法人理念の下、グループホーム独自の理念を作る取組にも期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域社会との繋がりを持ちながら、自治会への入会、近所付き合い、地元の活動や地域住民との交流を積極的に行っている。書道・絵画教室など地域の方も参加しておられる。	自治会に入会している。地域の老人会の方々が施設の喫茶ルームで交流されたり、毎月1回、地域ボランティアの指導もと多目的ホールで書道や絵画の教室が開かれ、地域住民や併設事業所のサービス利用者も一緒に参加している。利用者の作品が小野市好古館に展示されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流をしながら、介護教室など地域に出向いて話をする事で理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、市の職員、社協職員、民生委員、地域住民代表、家族会代表者、職員とで構成し、報告や意見交換をし、サービスに反映出来るようにしている。	利用者・家族会代表者・市の職員または地域包括支援センター職員・民生委員・施設職員をメンバーにして2か月に1回定期的にパワーポイントの映像を用いて分かり易い内容で開催されている。会議では運営状況の報告だけでなく意見交換や相談など、サービス向上への取組に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が開催される事業所連絡会に参加し相談したり意見交換をしている。また運営推進会議での報告に対しても市の職員さんからの提案など頂きながら協力関係を築いています。	毎月の利用状況を報告したり、利用希望者に関する各種相談なども含めて意見交換している。市担当者が運営推進会議に出席される機会の他、市主催で半年に1回開催される事業所連絡会に参加するなどして、連携の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は鍵をかけない。身体拘束についての会議を毎月行う、また勉強会を行いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。安全確保が出来るよう心がけています。	身体拘束をしないケアの実践について、毎月、職員会議を行うと共に年に1回勉強会を実施して日々の利用者支援に取り組んでいる。また昼間、玄関についても施錠せず、抑圧感のない取組に努めている。	身体拘束をしないケアの実践についての勉強会が行われ理解を深める取組はされているが、職員の共有認識を図るためにも実施した勉強会及び委員会の記録を残すことを望みたい。(虐待防止や権利擁護の研修についての記録も同様)
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会、職員のストレスをためないように言葉を交わしたり、意見交換をする。行き過ぎた言葉などにも注意を払い、お互いに注意し合えるようにしている	虐待防止の徹底を図るために事業所内で勉強会を実施している。また日頃、利用者へのケアの中で職員の言葉かけに注意を払うと共に、朝ミーティングの折にその時の職員の状況を観察するなどして職員のストレスを取り除くべく対応に努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は権利擁護について学び、パンフレットを設置し、必要とされる利用者があれば話し合っている。	現在、成年後見制度の利用者はいないが、市から入手したパンフレットに目を通して権利擁護について学び、知識を増やして利用者家族への支援に活かせるように努めている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前からご家族のご要望、相談、疑問等について洗わせるような働きかけと十分な説明を行い、納得を得た上で手続きを進め、個別の配慮や取り組みをしている。	生活相談員が併設の特別養護老人ホームとグループホームのサービスの特徴などを説明するようになっており、契約に際しては施設長が対応し、丁寧に説明を行い理解・納得の上で契約を結ぶようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの意見、要望を引き出すため、意見箱の設置、ボランティアの導入を行っている。家族会、運営推進会議の意見要望などを聞き、率直な意見として迅速な対応を心掛け、サービス向上に努めている。	家族会議を開催する機会に意見・要望をお聞きしたり、運営推進会議で意見を伺うようにしている。利用料金の支払い方法が、26年4月までは窓口支払であったが、振込支払いに切り替えた事例など、意見や要望を反映させる取組に努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の率直な意見を聞く為、職員専用の意見箱を設置している。また月に1回ユニット会議、連携会議などをする事で、職員の声に耳を傾け、働く意欲の向上につながるように努めている。	毎月1回、ユニット会議や連携会議が開催され、職員は意見・提言のある時は「企画書」を提出する仕組みになっており、これまでもそーめん流し、利用者や朝顔の種を植えるなどの企画が採用されている。管理者との個人面談の機会を設けるなど、職場内のコミュニケーション向上への取組が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の人事考課表を作成し、自己評価、上司・管理者評価をしており、適宜面接もしている。また今後の個人目標等も聞きながら支援できるよう配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の重要性を認識しており、全ての職員の質の向上が出来るように、事業所内外研修への参加が出来る仕組みをもち、働きながら学ぶ事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の4か所のグループホーム事業所が3か月に1回集まり連絡会を開催し、情報交換、見学会や勉強会を行っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との関係づくりを大切に、本人の声に耳を傾けながら、気持ちを受けとめ、安心した生活が送れるように信頼関係の構築に努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を踏まえた上で、ご家族の相談や要望があれば受け止め、関係性を築くように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、ご家族の事情や要望もとに、その時点で何が必要か見極め、出来る限りの対応に努めている。また事業所だけで抱え込まず、必要に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と時間をかけて関わっていく中で、より深く本人を知ることが出来、共に過ごすことにより安心感と安定感を持って頂けるように努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の支援者であり、これまでの両者の関係性を踏まえつつ、今後もより良い関係を築いていただけるための支援に努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、商店街、行きつけの場所(スーパー、美容院)へ出かけたり、来てもらったりして人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	行きつけのスーパーに行く支援を行ったり、家族の協力により美容院や墓参りに行くこともある。併設の特別養護老人ホームやデイサービスを利用されている馴染みの方との交流も行われている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来るようにリビングで過ごす時間を大切にし、共に暮らしを支えあい、楽しめるような支援に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居される場合でも、転居先の関係者に対して、本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、その後も相談を受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前までの生活歴を参考に、利用者の思いや意向の把握に努め、その人らしく暮らし続けることが出来るように努めています。困難な場合は、アセスメントや会話や様子をもとに関係者が本人の視点にたって、意見を出し合うこともあります。	一人ひとりを尊重してその人に応じた対応を行っている。本人の生活歴・習慣・性格などを基に、一人ひとりの思いや意向を把握するように努め、家族からも聞くなど意向の把握に努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、本人・ご家族から聞き取りをしています。職員と馴染みの関係を築きながら、これまでの暮らしの把握に努めています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の「できる・支援があればできる」を職員が把握し役割を持っていただきながら生活していただく。職員が把握できるように努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議での担当者の意見、ご家族の意見や要望を踏まえ介護計画を作成している。ユニット会議などで気づきやアイデアを出し合うことでよい計画書を見直し、モニタリングを行っている	モニタリングを毎月1回実施して、利用者満足度・目標達成状況の把握を行っている。また家族・相談員・スタッフ・ケアマネジャー・看護師などの関係者による担当者会議を開催して、半年に1回介護計画の見直しを行っている。加えてモニタリング表等の継続的な記録を残す事も肝要。	P(計画)-D(実行)-C(チェック)-A(見直し)のサイクルに沿って、チームとして活動した記録を残し、ケア情報を共有して支援に取り組んでいくことを望みたい。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人を身近で支える職員しか知り得ない事実や、ケアの気づき等を個別に記録し、その記録を根拠にしながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の場として利用者のニーズに対応し、柔軟な対応、臨機応変な対応ができるように支援体制が持てるように取り組んでいる。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、絵画・書道教室、ハーモニカなどを取り入れ、また公民館、スーパーマーケット、美容院、病院等を把握し地域の人や場の力を借りた取り組みをしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みの医師による医療が継続的に受けられるよう、また本人やご家族が希望する医師により医療を受けられるように支援している。	利用者家族が希望するかかりつけ医の受診支援が行われている。原則として通院介助は家族が行っているが、状況によっては適宜、職員が同行するようにしている。施設は、他科受診の受診情報を家族から得るようにしている。協力医の利用者は毎月2回、往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の健康管理や観察の視点など看護職と介護職が連携を密にし、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院生活・治療が出来るように家族様に連絡を取りながら、経過の把握をしている。様子観察、病院関係者と相談しながら早期回復、退院に向けた連携をとっている。また地域連絡会には参加し、関係作りにも努めている。	利用者家族、医療機関との連携を図り、早期退院に向けた支援に努めている。入院に際しては利用者情報を速やかに医療機関に提出し、入院中は状況把握を兼ねて見舞いに伺い、退院時は退院時カンファレンスに家族と共に出席し、退院時サマリーを入手して支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期支援のあり方や事業所の対応について、段階ごとに家族、かかりつけ医等のケア関係者と意向を確認しながら、対応方針の共有を図る。	重要事項説明書に「重度化した場合における対応に係る指針」の項目を記載しており、契約時に利用者家族に説明して同意を取り付けるようにしている。併設の特別養護老人ホームが看取りの支援を行っており、具体的な状況に応じて希望があれば同様の取り組み支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より利用者の変化に気をつけながら観察しており、応急手当については勉強会などを行っている。連絡体制などは周知している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練は併設事業所と協力して、年2回行っている。地域消防団と連絡体制があり、訓練の時も参加してもらおうなどしている。災害時に備え、備蓄品を備えている。	年2回併設の特別養護老人ホーム・デイサービス事業所と合同で夜間想定を含む避難訓練を実施している。今秋に近隣住民も参加して夜間想定での避難訓練を実施予定であり、運営推進会議でも協力要請を行っている。施設は小野市の福祉災害避難所に指定されている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、権利擁護の勉強会等を行っており、日常的に考えるように働きかけている。トイレや入浴時等は特に配慮しながらの声掛けをしている。敬語に捉われず、相手を思う気持ち、親しみのある言葉がけで対応している。	接遇・権利擁護の勉強会を実施し、利用者の人権尊重について学び、礼儀や言葉遣いに注意するようになっている。利用者のプライバシーの確保についても研修を行い理解を深める取組を期待したい。同時に実施した内容についての記録の記載も肝要。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でも、言葉や表情などの反応を観察しながら自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを支援するため、本人を見守りながら、その日の動きや状態に合せた適切な関わり方をし、一日の過ごし方について柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は自分で選んでいただき、個別に支援している。外出などがあると、服装を自分で考えておしゃれをされている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に食事を作ることが困難であるが、月に1回は調理の日を作り、全員で役割を持って料理をしている。食事の盛りつけ、下膳などは日常にしていただけの人もあり、一人ひとりに合わせて支援している。	主食のご飯と汁物は事業所で調理され、副菜は、併設の特養の調理室より運ばれてくる。畑でとれた野菜を使ったり、利用者と買い物に出かけて、料理をする日も定期的に設けている。食事の準備、盛付けや片付けなどは利用者と共にいき、出来る力を発揮してもらうよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの食べ物、飲み物や習慣を入所時に確認し、日常での把握をしながら、体調や運動量、体重の増減などを考慮し、個別の1日カロリーと水分量を決めて、ケアに取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や本人の力に応じて、口腔ケアをしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を前向きに支援している。排泄パターンや習慣を把握し、トイレ誘導や見守りを行い、自立に向けた支援をしている。	紙オムツ使用の利用者がトイレに誘導できるように、少しずつタイミングをみながら誘導して、リハビリパンツに移行されたケースもある。利用者一人ひとりの排泄パターンや状況をみながら職員が把握し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録に残し、一人ひとりに応じた自然排便を促すため、オリゴ糖の使用、散歩、運動などの工夫をしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、利用者に無理強いくことなく、意向に沿ういながら、拒否があれば時間を変えたり、翌日にするなどして入浴出来るように支援している。	季節ごとに、ゆず、しょうぶなど、お風呂の楽しみ方にも工夫した取組を行っている。ひとり一人の入浴希望も尊重しながら、平均して週に2回以上は入浴の機会を提供するように声かけしている。利用者毎にお湯をはりかえ、ゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人にとっての自然なリズムを大切に、生活習慣や活動状況、ストレスの状況を把握し、安心して気持ちよく、休憩したり、よく眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容や薬の情報提供書などが確認できるようにしており、目的、副作用、用量の理解を深めるようにしている。また、本人の状態経過や変化等に関する日常記録は、医療関係者に情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味や嗜好に合わせ、一人ひとりにあった役割や楽しみ、気分転換を支援しています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意欲や自立を保つためにも、本人の思いに沿って、行きたい場所への外出支援を行うように努めている。外出は月1回は行事として出かけている。	事業所の敷地内は広く、散歩コースとしての遊歩道があり広い森のような庭がある。駐車スペースにも椅子などが置かれており、それぞれ座っておしゃべりや気候の良い時期には、職員と一緒にお茶やおやつを楽しんでいる。外部への外出も季節ごとに花見や遠出で楽しみをつくって支援している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月1回パンを売りに来ているので、好きな物を購入する機会を設け、支払いをしてもらっている。管理は事業所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば固定電話での通話や、携帯電話を持っておられる方もあり自由に使用されている。手紙のやり取りも出来るように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、利用者にとって居心地の良い場所作りに努めている。また、生活感や季節感も大事にしている。	広い食堂には、大きな窓があり、中庭や畑、そして周りの山々が見える。自然の光も入り、風も通るように工夫されている。利用者と職員が創った作品などが壁面に飾られている。食堂のテーブルや椅子だけでなく、ソファも置かれて、それぞれの気分や好みで選んでくつろげるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人の気配が感じられる空間の中で、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。お部屋に訪問し合って話されることもある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や小物などを持ってきてもらい、お部屋内のレイアウトも希望に沿って行っている。	利用者の居室には、ベッドや筆筒が用意されている。他にもご自分で使用されていた家具や小物、作品などを持ち込まれている利用者もあり、ベッドの位置や向きなども本人や家族とも相談して決めている。神棚を置かれている利用者もあり、利用者毎のこれまでの習慣などを尊重した支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合せた危険防止や自分の力を活かして動けることを支えるための環境作りに心がけている。		